

社会実験結果の分析の方針

1. 全体目標

- ① 大山の環境保全と持続可能な利用の充実のために受益者負担による仕組み（入山協力金やトイレチップ等）を導入することが適当かどうかを、利用者数への影響や費用対効果の観点等から検討するとともに、
- ② 導入する場合の適当な金額設定、用途、料金の効率的な回収方法及び回収場所、登山者等への効果的な周知の方法について検討する。

2. 主な分析項目

<影響把握>

【問】受益者負担による仕組みを導入することにより、登山者数がどの程度減少するか？

- ・登山口での調査の結果から、受益者負担の仕組みの導入によって大山を避けると回答している登山者の割合を属性別に整理

<対象者・場所の設定1（登山者／観光客）>

【問】登山者と観光客とでは、仕組みの導入への賛否や支払意思額において、どの程度異なるか？

- ・駐車場での調査の結果から示唆される観光客の仕組み導入への賛否の割合と支払意思額、登山口での調査から示される登山者の仕組み導入への賛否の割合、募金者率、平均募金額を用いて比較。

<対象者・場所の設定2（登山者／トイレ利用者）>

【問】入山協力金と、受益者負担であることがより明確なトイレチップとでは、協力率・募金額が、どの程度異なるか？

- ・山頂及び登山口での調査における協力率や募金額を比較

<個人属性と募金の傾向>

【問】どのような個人属性を持った人がたくさん募金するか？

- ・登山口での調査の個人属性と募金額から解析

<用途>

【問】用途によって協力率や募金額はどの程度異なるか？どの用途の組合せの場合にたくさん募金が集まるか？どのような個人属性を持った人が各用途への使用を希望するか？

- ・登山口での調査における用途に関する希望の有無や各用途（山頂トイレの維持管理、携帯トイレの運用、登山道・木道の補修、植生保護）への協力率・募金額を比較・解析

<仕組みの態様と金額の設定>

【問】適切な仕組みの態様（入山協力金／トイレチップ等）とその妥当な金額は？

- ・ 山頂、駐車場及び登山口での調査における募金額や支払意思額のデータを元に平均値や中央値を参考にして妥当な金額を推計
- ・ 山頂トイレ等の施設の維持管理費や大山の環境保全等にかかる費用と、トイレの利用者数や登山者数、可能な場合には他地域における同様の仕組みの運用経費等を参考にして、費用面から必要とされる一人当たりの負担金額を推計

<効率的な回収方法>

【問】トイレチップや入山協力金の効率的な回収方法は？

- ・ 山頂及び登山口での調査から、登山者がトイレチップや入山協力金を支払いやすいと思う支払い方法を居住地や年代などの属性別に整理

<効果的な事前広報>

【問】トイレチップや入山協力金に関する効果的な事前広報手段は？

- ・ 駐車場での調査の結果から訪問前に参考にしているメディアを居住地や年代などの属性別に整理